工学部学生のためのキャリア教育プログラム「みらい協育プログラム」
Career education program for Engineering students "Miraiyouiku (cooperative future design and education) program"

福井大院工 °葛生 伸

Univ. Fukui, °Nobu Kuzuu

E-mail: kuzuu@u-fukui.ac.jp

〈はじめに〉最近「キャリア教育」の必要性が強調されている。福井大学大学院工学研究科では修士学生を対象にした「創業型実践大学院工学教育」や博士学生を対象にした「産業界に即応する実践道場」などのプログラムを実施し、産業界で役立つ人材の育成に努めてきた。一方、学部学生に対する教育プログラムの実施は未整備であった。そこで、2012 年度の入学生からキャリア教育プログラム「みらい協育プログラム」を開始した。「協育」という言葉には、学生本人の将来を本人と教員が創っていくとともに、本人も将来の社会を一緒に創っていく一員になってほしいという願いを込めている。本プログラムの概要と今後の課題について報告する。

〈プログラムの概要〉同プログラムは、全員対象のものと、希望者対象のものに分かれている。「教員との面談」「みらい協育ガイダンス I, II, III」(各々1~3 年次対象)が必須である。成績は各学生担当の「助言教員」が配布している。成績配布時に、将来のことについて面談する。ガイダンス I は、就学の心構え(筆者)、就職支援室(本学工学部 OG の新人)職員、先輩学生の話聞く。ガイダンス II は、理系大学院出身の就職エージェント担当者の話を聞く。ガイダンス III は従来から行われてきた学科毎の就職ガイダンスである。希望者対象のものは、工学部の共通科目として開講されている実践的な科目に心理学などの「人間理解系科目」2 単位を含めた 8 単位以上履修した上、実践報告をする。これを履修したものには、修了証を授与する。

〈現状〉現在、本プログラムを開始して 2 年目である。ガイダンス I, II とも、自己アピールなどのテクニックを教えるのではなく、就業力をつけるためには、本来の学修を通じて、自己の人間性、自己教育能力、専門能力などを高めて行く必要性を強調している。ガイダンス I の中では、大きな社会構造の変化が予想される時代を生き抜くために、「自由な雰囲気の中での規則正しい生活」、「決まりを守り、連絡・相談をすること」「得点力を上げる学習からプロセス重視の学習への質的転換」などが大学での学修が社会人として生きていく力(就業力)育成につながることを強調している。

〈今後の課題〉今後は、修士以上の学位を持った者が専門技術者の中心となるものと考えられる。そこで、大学院への進学を勧めるとともに、大学院で実施しているキャリア育成のためのプログラムと連携していく必要がある。さらに、学部においても、実践力や学士力育成のためのさまざまなプログラムを文科省の GP などに採択されたことをきっかけに実施している。これを最大限に活かして、真に社会で役に立つ人材の育成につなげていくような教育プログラムを育て上げていくことが必要であると考えている。